

平成 20 年度号 No.28 平成 20. 6. 13 発行  
〒275-8511 千葉県習志野市泉町 2-1-37  
東邦大学付属東邦中学校・高等学校同窓会  
TEL/FAX 047-472-1160  
URL <http://www.dosokai.org>  
E-mail [tohojh\\_dousokai@yahoo.co.jp](mailto:tohojh_dousokai@yahoo.co.jp)

## 目 次

- 同窓会総会開催案内…………… 1
- 会長あいさつ…………… 2
- 学校長あいさつ…………… 3
- 同窓会のこの1年…………… 4
- 特別寄稿…………… 9
- 同窓生のページ…………… 11
- 学校の近況…………… 16
- 平成 20 年度入試結果 …… 18・19
- 新入会員を迎えて…………… 20



題字：創立者 額田 晋先生 書

## 同窓会総会開催案内

日時 平成二十年七月十三日(日)  
会場 帝国ホテル  
本館四階 桜の間

総会開始 十二時  
懇親会スタート  
十三時から

(会場 桜の間・桃の間)

### 議 案

- ・平成十九年度事業報告
- ・平成十九年度会計報告
- ・平成二十年度事業計画案
- ・平成二十年度予算案

### 学校の近況報告

- ・東邦中学・高等学校入学をとりまく状況
- ・大学進学状況に関して
- ・その他

※先生方からご説明を頂きます。ご家族同伴の出席可。

### 懇親会 総会終了後、懇親会を行います。

会費は、正会員五千円、学生会員千円とし平成二十年三月卒業の新会員はご招待とさせていただきます。また、会員同伴のご家族からの会費徴収は致しません。

なお、会場内での喫煙、未成年者の飲酒はできません。

☆出欠のハガキは七月十日(木)必着。

FAXでの回答はご遠慮下さい。

☆電話 ○四七―四七二―一一六〇

# 同窓会発足53周年に祝意を表します

中高同窓会長 鮎川 二郎（七期卒・千葉商科大学教授）



同窓会は昭和三十年（一九五五年）第一期生のご卒業の年に発足しました。それ以来平成二十年（二〇〇八年）

までで五十三年間が経過しました。平成九年（一九九七年）六月七日の総会で私が会長として推挙されるまでの約四十年間の歴代会長は、天野悦男氏（一期卒）、小山千明氏（二期卒）、戸張千年氏（七期卒）、高野和章氏（二期卒）、横山信行氏（四期卒）の諸氏でそれぞれ会務が運営されました。半世紀に及ぶ同窓会の管理運営とこれまでのご尽力に対して、現在同窓会を運営している理事をはじめ、会員皆様と共に心から敬意を表する次第です。

同窓会五十年の軌跡には、人生に例えても同様に必ずしも安定した時ばかりであるとは限りません。会長に推挙された当時の同窓会は今更詳しく申すまでもなく、正に人生五十年代でより充実した人生を築くためにも真剣に取り組みねばならないようなかなり厳しい課題の山積する時期でもありました。そうした難局も当時の母校伊藤恒之校長をはじめ、諸先生方、吉岡英征習志会会長のご協力、同窓会役員と会員の熱意あるご支援により、やっと乗り越えることができました。特に弁護士 吉峰啓晴氏（元習志

会役員）には法的問題解決で献身的なご支援をいただきました。ここで関係各位様には改めて感謝申し上げます。

□参加・連携・協働の開かれた同窓会づくり  
本来、同窓会は会員相互の交流と親睦を深めながら母校の発展と後輩の育成を支援するものであり、そのためにも学校法人東邦大学、習志会（PTA）とも連携して開かれた同窓会を作り上げることが大切と考えています。

会長就任後から現在までの主な活動としては、月一度の定例役員会、毎年の定例総会、後輩への卒業記念品の贈呈、入学式、卒業式、文化祭等の学校行事への積極的参加、習志会、学校法人とも密接な関係を保ちながら円滑かつ有意義な活動を推進するために鋭意努力をしております。各年次総会は、法人理事長、母学校長先生をはじめ、事務長、諸先生をお招きして会員相互ともに充実した会として開催しております。

平成十四年には、教育実践に熱心な秋山尚功校長を中心に中学創立四十周年、高校創立五十周年記念式典が盛大に行われました。同窓会執行部は、周年事業実行委員会メンバーとして準備段階から一連の行事の実現まで参加させていただきました。同窓会ではこの周年記念事業を契機に、教育施設整備費として二千万円の寄付金支援のほか、東邦教育の理念として象徴されている「自然・生命・人間」（額田晋著）を複製本し、式典参加者をはじめ、大学法人関係者、中高全生徒に謹呈しました。その後も毎年

の入学者に無料配布しています。また、母校では最近、先生方が力を合わせて「自然・生命・人間」の内容を理解しやすくするためのガイドブックを製作し、後輩たちに必読することを勧めています。

平成十七年（二〇〇五年）六月十二日に学校法人東邦大学創立八十周年記念式典および祝賀会が新高輪プリンスホテルで盛会裡に行われました。記念式典の後、祝賀会では主催者挨拶、来賓祝辞に続いて来賓二十六名が壇上に招かれ、盛大に鏡割りが行われ、指名により中高同窓会長鮎川が乾杯の発声をさせていただきました。

## □本年度総会開催に向けての期待

平成九年から今日までの会務運営は、法人本部をはじめ、母校校長および諸先生、事務局長ほかの関係者からの温かい信頼と力強いご支援により、現執行部の分相応の成果を出しつつ順調に推移しているものと認識しています。ただ一つ執行部のみでは解決できない問題として、会務運営のステージとなる「会員相互の充実した交流の場」が挙げられます。その最も相応しいステージが「総会および懇親会」です。これまでの総会は、卒業生の思い出の多い母校で開催することが多くありました。また時には趣向を変えて母校近隣や都内のホテルでも開催していますが、多くの会員が参加していただけないのが本音です。会員皆様の主体的な参加無くして連携・協働は有りえません。今年と同窓会発足五十三周年に当たります。そこで今年度の総会は、帝国ホテルに人的ご縁がありましたので、会場として決定いたしました。例年に増して多数の会員参加を期待いたしております。会員皆様には趣旨ご賢察のうえ、ご家族お揃いで奮ってご参加くださるようお願いいたします。

## 母校の近況 遙かなる学灯

―“辿り来て未だ山麓”―

校長 秋山尚功



はじめに  
今春始まった「花いっぱい運動」。本館前の学祖の像も花に囲まれて心が和んでいるようにも感じられる

この頃です。会長はじめ同窓会の皆様の日頃のご支援に感謝申し上げます。

◇ 中学入試合格発表日のこと、ある父親が話しかけて来た。「合格させて頂き感謝します。兄も合格したが今は駒場東邦に通学中。駒東のエリート教育もよいが、付属中の方が額田先生の精神が反映されていると感じている。中高段階では大学受験に特化せず、広く人間性を培うことが大切で、その点こは良い学校だと思う。弟は駒東も受けているので、進学先は本人の意志を尊重したい。…」と。「それは当然です。ご健闘を祈ります。」と応じたものの、本心何処にありや…と聊か複雑な思いもした。

又、時々、予期せぬ朗報に接することもある。例えば、東邦大関係の本校出身医師の多くは人間性に優れ、母校の教育の良さが窺える旨の情報である。何れにしろ外部に高く評価されることは母校としても誇りに思うところである。

◇ 過日、本法人のブランディングプロジェクトに関連して、傘下の両中高の評判を誇りとし、今日に至る経営努力につき説明を求められる機会があった。駒東からは、開校当初から「頭脳の資源化」の建学理念のもと、六ヶ年中高一貫教育を導入し、先取り学習や少人数分割授業、大学入試対応授業の実施等で、東大はじめ高い進学実績を上げて来た旨の説明があった。

◇ 本校については次のように総括説明をした。「本校の歴史を顧みて、駒東のように創立当初から継承されている明確な教育システムや発展要因を検証することは難しい面もある。基本的には、歴代校長・教職員や生徒の努力、保護者や卒業生の支援等が内部要因として結実したものである。その中で、進学校への飛躍の契機として注目されるのは、文理別・習熟度別授業、学力向上合宿等の実施や、男女共学制の導入等であったとは、往時を知る関係者の多くが述懐するところである。加えて、保守的で公立志向の県民感情が強い中で、本校が医・薬・理を擁する大学の付属校として創立されたという点は、その後の本校の発展に有利に働いたと思う。その潜在的なブランド志向性が地域社会から大いに期待されたことは推測に難くない。しかしそれと同時に、外的要因として公立校の社会的地位低下（公立高校の「総合選抜制」の実施、「ゆとり教育」への不安、等）の影響

も私学全体にとって追い風となったという側面もあったと思う。学校の評価は、自校の主観的な判断もさることながら、他校比較を通して社会的に決まるものであることを肝に銘じるべきである。

過去を顧み、現状を確かめ、将来に備えることが肝要である。新学習指導要領の告示も近い。来し方行く末を論じ、県内私学の雄たるべく、英知を結集し一層努力する所存である。」と。

◇ 私学の神髄は建学理念の具現化にある。学祖の理想は、「科学的な精神」と「優れた人間性」をもって社会に貢献する人間づくりである。

現在本校では、『自然生命人間』の箴言69の中から、生徒が学校生活を有意義に送る上で座右の銘としたい言葉を自分で選び、自身に誓うという自己宣誓を課している。この本から刺激を受け、励みを与えられたとする生徒は多い。自律的で志の高い生徒の育成を目指して今後も継続していく考えである。

地域美化活動も、年間を通じて、中一から高三まで各学年が街頭に出て実施している。これも習志野市に生活する一住民としての当然の活動との認識に立ち、ボランティア精神というよりも地域共生精神の啓発に比重を置く。この視点こそが学祖の思いに近いと信じている。

今年は美化委員会活動として、校地の随所で「花いっぱい運動」に取り組んでいる。小さな試みが裾野を広げることが期待している。

むすびに 六月十五日（日）は額田豊先生の三十七回忌法である。ご霊前に現況をお届けし、東邦人として「源流回帰」を考え続けていきたいと思う。

# 同窓会のこの一年

同窓会副会長 渡邊和彦（二〇期生 歯科医院経営）

同窓会活動のこの一年（平成十九年六月～平成二十年六月）を簡単に報告させていただきます。

## 平成十九年度同窓会総会・懇親会



昨年六月二十三日、グランドプリンスホテル新高輪において、平成十九年度同窓会総会が行なわれました。三月に母校を卒業した新会員の多数出席があり、例年以上に若さにあふれた雰囲気の中になりました。

議事は、会報「ならしの」第二七号に提示された議案を中心に予定通り進められ、決算報告、事業報告、予算案、事業計画案等、すべて承認されました。また、同窓会活動の充実と発展に向けて、今後も会員一同協力していこうという意思が出席会員の総意として確認されました。

また、母校の近況については、秋山校長先生からご丁寧な報告がありました。また、進路指導部長、山岸良二先生からは「平成十九年度大学入試結果」についての詳しい報告がありました。

総会に続いて行なわれた懇親会は、大学の学期末試験などの関係で総会に参加できなかった新会員も加わり大変盛況でした。世代を越えた親睦の場として、また情報交換の場としても、とても有意義な集いになりました。



## 母校卒業式に向けての取り組み



### ◆卒業記念品の贈呈◆

卒業を祝し、例年通り、ペン型印鑑と「鮎川会長デザイン特製ペーパーバッグ」を卒業生全員に贈呈しました。

### ◆臨時会報の発行◆

昨年度に引き続き、今年度も新入会員に対して、「臨時会報」を作成・配布致しました。会報には、同窓会組織・規約の説明、高校卒業生への祝詞と激励などを盛り込みました。（平成二十年三月二日新入会員に配布）

### ◆同窓会入会式◆

三月二日（卒業式前日）、母校体育館で同窓会入会式が行なわれました。同窓会役員を代表して、手塚幹子理事が歓迎の挨拶をしました。

薬剤師として輝かしい活躍をされている手塚理事の言葉を新会員達は、目を輝かせて聞き入っていました。

◆卒業式への参加◆  
 三月三日、母校体育館で卒業式（卒業生  
 三九三名）が挙行され、鮎川二郎会長が同窓会  
 を代表して、来賓祝辞を述べました。



平成二十年度入学式



平成二十年四月八日、母校体育館で中学校・  
 高等学校の入学式が挙行され、鮎川二郎会長が  
 「卒業式に続いて」同窓会代表の祝辞を述べま  
 した。



「自然・生命・人間復刻本」贈呈



東邦中・高への入学を祝し、例年通り、学祖、  
 額田晋先生著「自然・生命・人間」の復刻本を  
 新入生全員に寄贈しました。（平成二十年四月  
 八日）

会報「ならしの」第二十八号発行



（平成二十年六月十三日）

◆同窓会アワード

(母校生徒への報奨制度)の実施



規定に従い、次の部活に報奨金を贈呈しました(学校の近況のページに関連記事があります)。

- ・中学校水泳部(関東大会出場 全国大会出場)
  - ・中学校スキー部(関東大会出場 全国大会出場)
  - ・高校スキー部(関東大会出場 全国大会出場)
  - ※関東大会において、男子リレーで優勝
  - ・高校女子ハンドボール部
- (関東大会出場 全国大会出場)



スキー部

◆全国高等学校選抜大会◆

女子ハンドボール部 土肥 由真

三月二十四日から徳島県で行われた全国高等学校選抜大会に、私達チームは出場しました。今のチームでこんな大きな大会は初めての経験だったし、部としても選抜は初出場でした。結果は初戦と二回戦を突破し、三回戦敗退でベスト16でした。とりあえず一勝することはできて、初出場初勝利、健闘だったと思います。課題もたくさん見つかり、これから先のことも見据え、得たものは大きいです。

まず、何より、この大会に出ることが出来て本当に良かったです。全国という大きな舞台での経験は、私自身も、チームも成長をすることができたと思います。また、ひとつの自信にもなりました。それに、全国レベルの試合を観て来て、いい刺激をたくさん受けました。これらの経験は夏の大会に向けて、本当に大きいものになったと思います。

選抜予選の県大会から関東大会も通して振り返ると、ここまで勝ち上がったのは、チームがひとつとなって戦って来ることができたからだと思います。一番大事なのは、河村先生がいつもおっしゃっていて、先輩達が身をもって教えてくれた、「心」。だから、関東大会で皆が心をひとつに戦い、全国を決めたときは本当に嬉しかったです。皆で泣いて喜びました。

また、このような経験が出来たのも、いろんな人の支えがあったからだと思います。応援してくださったたくさんの方々には感謝しています。これからも、自分達は恵まれた環境を与えてもらっているんだ、という感謝の気持ちを忘れずに頑張りたいと思います。



ハンドボール部

インハイ予選まであと二ヶ月をさりました。選抜出場に満足せず、気を引き締めて残りの日々、練習を大事に積み重ねて行きたいと思います。この大会で見つけた課題を克服し、もうひとつチームのレベルを上げて、最後まで悔いが残らないように精一杯頑張ります。このチームで今度はインターハイに出場したいです。まだまだこれからです。

## 猪野邦雄理事を偲ぶ

同窓会理事 御喜 和  
(十八期生 母校教諭)

猪野邦雄理事(十七期生)が平成二十年一月二十日朝、急逝されました。(享年五十六)

私は、猪野さんの地元、千葉市若葉区で営まれた葬儀に参列し、「ご供養の席にも加わったのですが、「猪野さんが逝去された」という現実を受け入れることが出来ぬまま、呆然とその場を過ごし、家路につきました。亡くなる十日ほど前、同窓会理事会の件で電話連絡をしたとき、猪野さんの声はいつもと変わらない元気なものでした。

猪野さんは私にとって東邦高校の一期先輩ですが、在学中は全く面識がありませんでした。猪野さんと初めてお話ししたのは、平成八年六月、同窓会新体制スタートの直前でありました。

千葉工業大学を卒業し、千葉市役所に奉職された猪野さんは、その当時、千葉市の環境行政の第一線で活躍なさっていました。図らずも千葉市役所内で「東邦高校出身者の集い」の話が持ち上がり、有志代表として猪野さんが同窓会の窓口を担当していた私に電話を掛けてこられたのです。私は猪野さんのご依頼に対し、出来る範囲でお応えしたわけですが、電話口からは猪野さんの誠実なお人柄とバイタリテイがひしひしと伝わってきました。詳細は割愛しますが、そんな経緯で私は猪野さんと知遇を得、猪野さんは同窓会執行部に加わって頂くことになった訳です。

新体制がスタートして数年間、同窓会総会の会場には緊張感が漂っていました。現在の同窓会組織が誕生するための産みの苦しみだったと思います。猪野さんはこの大変な時期、総会議

長団のリーダーを務めて下さいました。

総会の場ではかなり激しい議論がありました。猪野さんは全く動ずることがありませんでした。地域行政の現場で修羅場をくぐってこられた猪野さんには、多少のことは問題にならなかつたのでしよう。ユーモアを交えて総会をコントロールしていく勇姿は本当に頼もしいものでありました。

猪野さんの環境行政への打ち込みは「お役所仕事」という言葉とかけ離れたものだったと思います。早朝から現場に向き、深夜まで会議を重ねているお役人。「猛烈社員は役所にもいる」と言つて猪野さんは笑っていました。

私は自分の授業のことも、猪野さんにごいぶんお世話になりました。とくに「ダイオキシソ」について問い合わせたときには、研究機関では人手できないような資料をたくさんご送付いただき本当に感激しました。

しばらくして猪野さんは産業廃棄物指導課に異動になり、まもなく役所を退職されました。その辺の経緯については、猪野さんは黙して語りませんが、いろいろお悩みがあったのかもしれない。

その後、猪野さんは行政マンとしての経験を活かして会社を興されました。かなり苦労があったようです。同窓会の活動にもしばらく参加頂けませんでした。しかし、会社の方が軌道に乗ったということで、三年ほど前から同窓会の仕事にも積極的に参加下さるようになりました。

復帰後の猪野さんの活躍としては、同窓会役員団の代表として「卒業式・入学式の祝辞」を担当して下さったことが挙げられます。(平成十七年度卒業式、平成十八年度卒業式、平成十九年度入学式)豊かな人生経験に根ざした猪野さんのスピーチには、深い味わいがあります。

「万策尽きて途方に暮れるとき、解決の糸口すら見いだせず苦しめてたまるぬとき、皆さんはどうしますか。私は部屋を掃除し、机の上を整理し、車をピカピカに磨き上げる。そうすると光が見えてくるのです」

十八年度卒業式より

葬儀の日、猪野さんの地元の田園風景を目の当たりにしました。

猪野さんは、生前よくこんなことをおっしゃっていました。「少年時代は野山が遊び場だった。自分は動物と話が出来る。」

毎年、一月の理事会の時は自家製味噌を、四月の理事会の時は「朝掘りのタケノコ」を、猪野さんは理事全員に持ってきて下さいました。豊かな自然の中で育ち、志を立てて懸命に生きた方でした。もつともつと猪野さんのことを知りたかった…、今つくづくそう思います。

合掌



ありし日の猪野理事  
(平成 18 年度総会にて)

### 同窓会執行部からのお知らせ

#### 東邦高校同窓会の呼称について

「東邦高校の同窓会に呼称をつけよう」ということで、会報等を通じて広くアイデアを募ってきました。

今年度の総会は、この件を議案の一つに掲げました。よいアイデアがありましたら、同窓会事務局にご連絡下さい。

#### 平成二十年度同総会総会の実施に向けて

「会報冒頭の校長先生のご挨拶文」にありますように、現在母校は、「建学理念具現化」に向けて、学校を挙げて取り組んでいます。私たち同窓会は、「自然・生命・人間の復刻本」の作成、贈呈等、この取り組みへの支援を会の活動の柱の一つとしてきました。

また、各年度の同期会の開催に当たって、学年幹事の方から同窓会事務局へ問い合わせをいただくことが多くなり、「会報の同窓生のページ」には報告記事を寄稿して頂いています。

手前味噌になりますが、同窓会の活動は着実に信頼を獲得してきましたと考えています。

私たち同窓会執行部は、今年度の総会を「会のさらなる発展を誓い合う節目の場」にしたいと考えています。多くの会員の参加を執行部一同心から願っています。

以下に、執行部代表の熱いメッセージを掲載させていただきます。

#### 同窓会会費値上げについて

同窓会会員の皆様には周知のことと存じますが、東邦高校同窓会の活動は、学生会員（在校生）から徴収しているの同窓会会費が主な資金源となっています。

昨年度の総会で、平成二十年度入学生より会費を月額六百元（四百円↓六百元）に値上げすることが決定しました。

今後は、会員の皆様のご意見をいただきながら、これまで以上に「会費の有意義な活用」に心掛けていく所存です。

#### 懐かしい心の触れ合いしませんか

八期生 椋原茂樹

澄んだ心で江戸川堤に腰をおろすと、自然と懐古の匂いを感じ童謡を口ずさむ。自分の後ろを息を荒らげながら走り去る青年の姿に眼を奪われ、青春時代の我を追う。「懐かしさ」に触れ六十を過ぎた自分を知る。「そうだ！青春時代を共に過ごした友に会ってみよう！」そんなことを思う瞬間はありませんか。

七月十三日（日）十二時より、帝国ホテル桜の間で東邦高校同窓会総会が開催されます。この機会に懐かしの友と触れ合い、青春時代の自分を取り戻してみませんか。きっと思い出の一頁になると信じています。

本校の同窓会総会・懇親会にご家族の参加も歓迎しています。躍進する母校の誇りを御家族や、お孫さんにも伝えて頂けたら嬉しく思います。



アルバムより



最後列左より五人目筆者



# 特別寄稿

## ブランディング・プロジェクト



学校法人東邦大学理事長  
伊藤 元博

学校法人東邦大学は、東邦大学の知名度の拡大と東邦大学の真の姿を社会に発信するために、ブランディング・プロジェクトを立ちあげた。市場調査では、われわれの予想を遙かに越えて東邦大学の知名度は低く、大学の特色についてはさらに低かった。

このプロジェクトを推進するにあたり、必ずしも順風満帆ではなかった。大学の各部署での抵抗は強く、浸透するにはかなりの努力を要した。それでもその進捗状況は十分とはいえない。むしろその道は遙かと言えよう。

このプロジェクトは、単に東邦大学の良さを社会に宣伝するだけでなく、このプロジェクトを通して、改めて学校法人東邦大学の歴史、建

学の精神、組織を全教職員が再認識する切っ掛けになる機会でもある。学校法人東邦大学で働く者として、東邦大学を愛し、東邦大学を守ろうという気持ちは、学校法人東邦大学の歴史を知り、八十数年の東邦大学の歴史の中に脈々と流れている建学の精神を知ることによって生まれるものである。

三病院の診療科は、それぞれの特色ある診療実績を公開し、教育機関は、教育目標、教育方針、研究の特色を開示することにより、東邦大学の全体像が浮き彫りになり、その評価は必ず高められるものと信じる。

今、形となって現われているのは、コミュニケーションマークとコーポレートステートメントである。コミュニケーションマークは、東邦大学の建学の精神である「自然・生命・人間」を題材とした図柄が集り、青い地球を構成している図である。名刺・封筒・大学・病院の広告版などに使用されている。

このマークは、自然と生命あるものとの調和や共生、互いに助け合い、愛によって結ばれる世界観を表わしている。

ステートメントは「生命の科学で未来をつなぐ」である。このステートメントは建学の精神を象徴している。

このプロジェクトは、東邦大学

の多種多様な姿をあますところなく公開し、絶えず斬新な情報を取り入れ、かつ永続的に実施しなければならぬ。そのためには学校法人の全組織がプロジェクトの価値と重要性を真から理解する必要がある。

骨の折れる、苦勞の多い仕事だが、今法人本部の経営企画部のメンバーは辛抱強くこの仕事を遂行している。



医学部本館

## 東邦中高同窓生の皆様へ

前東邦中・高等学校教諭  
浮田豊志

長い間お世話になった東邦中高校を、定年までには三年程早いのですが、平成二十年三月三十一日付けで退職いたしました。

想えば、昭和四十三年四月東邦中高校の教員として着任以来四十年間、東邦一筋に教員生活を送って参りました。しかしながら、昭和五十四年五月に思いもよらぬ発病(慢性腎不全)のため、私の教員生活の大半は大勢の先輩・同輩教職員の皆さんに助けられ、支えられたものであります。また、今日を迎えることが出来た大きな原動力の一つとして、一緒に勉強して来た 延べ一万余の同窓生諸氏の過ぎ去りし日々の協力と励ましがあったからこそとおもいます。皆さん、本当に有難う御座いました。

振り返ってみると、様々な思い出が数え切れないほど脳裏に去来し、それらの事が全て昨日の出来事のように蘇って来るから不思議です。新任当初、部活動にも燃え 奥村・磯辺両先生が顧問をする高校の硬式野球部に参加させていただき、毎日遅くまで部員の練習

に付き合ったこと、夏期、中学では一年生の臨海学校が行われ、生徒も先生も真黒に日焼けしながら、早朝のラジオ体操、午前の学習、午後の海水浴、夜の楽しい屋外行事に参加し思い出作りをしたこと、軽井沢山荘へ勉強合宿に中学生を引率参加し、ある日の午後散歩に出かけ途中で雷雨に遭遇して工事資財を置くプレハブ小屋で雨宿りをしたこと、カナダのバンクーバーに於ける英語研修旅行に今は亡き佐藤重次先生と一緒に高校生を引率参加し、初体験の外国生活を送り英会話の出来ないう自分が情けなく感じたこと、秋には文化祭・体育祭の二つの行事が行われ とても忙しかったこと、冬には雪山での高校生・中学生のスキー教室に参加し、子供の頃からやっていて少しばかり得意で大好きだったスキーを通して生徒と触れ合い、嬉々としてスキーを楽しんだ事等々、全て遠い昔の事ですが懐かしく思い出されます。

私は昭和五十四年五月以来今も毎日の生活に制約のある透析生活を続けていますが、妻の支えと協力(ほんの少しは自分の節制努力)のお陰で元気に暮らしています。時々ドライブに出かけたり、温泉・景勝地を訪ねる旅行に出かけたり、紅葉風景の撮影に出かけたり、食品の成分を気にしながらの食事に出かけたり等々、身体が動くうちにといい、あちらこちらへ出かけるといった今日この頃です。

私は、中学で卒業学年を担任したことはありますが、高校でのそのような経験はありません。しかしながら、四十年という長い間の教員生活、その間の数学の授業を通して私と同じ時間を共有し、同じ思い出を共有する同窓生は何千にも及ぶ人数だけいらっしゃると思います(今となっては 全ての同窓生の皆さん

の顔と名前が一致しないのも事実であります。ゴメンなさい。)が、大勢の同窓生の皆さんとお逢いする機会もそれ程多くありません。これからは毎年開催されている同窓会に都合のつく限り参加させていただき、色々な機会を利用して、また、新たな思い出をたくさん作りたいと思っています。これからもどうぞ宜しくお願いします。

平成二十年五月十五日



昭和46年・九十九里浜臨海学校



## 特別支援教育の世界

二十九期生 加藤 誠

私は、現在「千葉県立特別支援学校 流山高  
等学園」に勤務しています。「特別支援学校」  
という名の学校は馴染みが薄いのではないかと  
思いますが、これまで「養護学校」と呼ばれて  
いた障害児対象の学校です。

ところで、皆さんは日本国内で障害を持つ子  
どもたちの人数をご存じでしょうか。平成十八  
年度のデータによると、我が国の義務教育段階  
の児童生徒数は千八十六万人ですが、その内の  
約二十万人が何らかの障害を持ち、特別支援学  
校や特別支援学級、あるいは通級指導等で特別  
な支援を受けていて、その割合は年々増加傾向  
にあると言われています。また、通常学級に在  
籍する児童・生徒の中にも、六・三％の割合で発  
達障害等の障害を持つ子どもたちがいるという  
調査結果も公表されました。特別な支援を必要  
とする子どもたちが、一般の小中学校にも一ク  
ラスに二人以上在籍している計算になります。

私は、そんな特別支援教育の世界で働くよう  
になって今年で十八年目になります。主に知  
的障害児の教育に携わってきました。振り出し  
は北海道の地方都市にある全校児童生徒数十五  
名という小さな分校で、十二年間北海道の学校  
で教鞭を執った後、千葉県の教員採用試験を再

受験し、現在に至っています。そんな教職経験  
の中で、多くの年月を進路指導担当教員として  
生徒たちの就労支援に取り組んできました。

障害を持つ子どもたちの就労支援と言っても  
想像し難いと思いますが、とても地道で根気の  
いる活動です。障害者を募集する企業は皆無で、  
一般パート等の求人情報を、職安の求人票や新  
聞折り込みの求人チラシ等から拾い出し、一件  
一件電話をかけていきます。しかし、百社以上  
問い合わせをしても、相談に乗ってくれる企業  
は数社しかないといった状況で、苦勞の連続で  
す。そんな根気のいる活動を繰り返している毎  
日ですが、なかなか就職が決まらなかった生徒  
が採用内定を勝ち取り、とても嬉しそうな表情  
を見せてくれたとき「この仕事をしていて良  
かった」と改めて実感している次第です。

特別支援教育の目指すものは、「自立と社会  
参加」と言われています。また、もともと大切  
にしている理念は「思いやりと他者を意識する  
感覚」とも言われます。

私は、その教育の原点とも言うべき理念を大  
切にしながらか、これからも特別支援教育に取り  
組んでいきたいと思っています。

## 素晴らしき同期生

二十六期生 砂入美穂  
(旧姓 栗原)

昨年六月二十三日(土)、私達昭和五十五年  
卒業生の同期会が第一ホテル東京にて開催され  
ました。全体同期会としては卒業初めて、実に  
二十七年ぶりでした。

事の起こりは、元三年日組の男性有志数名が  
飲み会の席で「久しぶりにクラス会を開こう」  
という話から始まり、稲見君の実にマメで地道

な同期生の搜索活動と、轟君、小林君、水沼さ  
んを中心としたメーリングリスト(ML)作成・  
運営活動により、約二〇〇名の消息・連絡先の  
確認が取れ、話が広がり最終的には学年全体の  
同期会へと発展していきました。これにより、  
約一七〇名が参加するという盛大なものになり  
ました。

芦野先生、岡田先生、鈴木修先生、松本琢司  
先生を始め八名の恩師の方々も参加して下さ  
り、二十七年の時を越えて懐かしくお話をさせ  
ていただきました。

同期生の中には多少、頭髪が寂しくなったり  
貫禄が出ていたり一目では分からない方も居ま  
したが、大抵の皆さんは全く変わらず、一瞬にし  
て高校時代にタイムトリップしたような感覚で友  
人達と楽しい時を過ごすことが出来ました。

私はクラス幹事として、この同期会開催の準  
備のお手伝いをさせて頂いたのですが、約半年  
前から月に一回程度準備委員会を開き、まだ連  
絡先不明の方々の搜索と同期会への勧誘を続け  
ながら、日程・場所決めから始まり同期会開催  
に至るまでの細々とした事柄に対してお互いに  
意見を出し合っていくうちに、今まで同じクラ  
スになったこともない、話したこともなかった  
メンバーと親しくなることが出来ました。また、  
そのあとの交流会ではまるで高校時代からの友  
人のようにメンバー達と話を咲かせ、有意  
義で楽しい時間を分かち合うことが出来まし  
た。改めて、東邦中・高校の卒業生の妻さ、温  
かさ、結束力の強さを感じました。

当時の東邦生は、皆バイタリティーに溢れ、  
機知に富んでいたように思います。同期生には  
勿論、医師、薬剤師などの医療関係者や教師に  
なっている方が多いようですが、金融・保険関  
係、IT関係の仕事に携わっている方や料理人

として活躍されている方、舞台俳優として活躍されている方などおられました。実に様々な世界で活躍されており、頼もしい限りです。実は、この度、我が娘もこの素晴らしい東邦中学校にお世話になることになりました。私以上に素晴らしい学校生活を送ってくれることと楽しみです。

温故知新

三十七期生 小 中 美 幸

医学薬学理学の名門、東邦大学の付属校で理系の高校である東邦高校にあつて、私のような卒業生は珍しいかもしれない。私は今、文化財保護の仕事をしている。もっと分かりやすく言えば遺跡の発掘調査の仕事をしている。夢のある仕事と人から言われることがあるが、雨風寒暑にクレーム・残業・薄給・少予算の中の土方のような仕事。東邦のイメージとはまるで一八〇度違う仕事をしている。

中学生のときに歴史に興味を持ち始めたのが最初の過ち。高校生のときに「史学を志したい」という若き過ちを真摯に受け止めてくれて親身に相談に乗ってくれた高校教師や訪ねてきた高校生に熱心に学問への情熱を語る研究者に出会ったのが運の尽き。親の反対も振り切つて京都府立大学文学部史学科へ入学してしまつた。京都という土地がまた魅惑の土地で、その上、大学で史学の深遠を教えてくれる教員に出会つてしまい、坂道を転がり落ちるように大学院に進み、七年も京都に居ついた後、終には専門職に就いてしまい、今日の有様である。しかしながら今だこの三方を恩師と敬慕してやまないのだから懲りてない。三方とは京都府立大学教授 菱田哲郎先生、国立歴史民俗博物館館長平川南

先生、そして東邦高校の山岸良二先生である。歴史とは絶対普遍と人は思うかもしれないが、歴史は時代とともに変わる。歴史とは現在を映す鏡であり、未来を示す道標と思う。故郷の歴史を学ぶことで市民や未来ある子供たちに、自らの存在を肯定し誇りを持って欲しいと願つて、懲りずに今日も残業している。

東邦高校は戦前、陸軍騎兵連隊のあつた土地で、残念ながら文化財の旧兵舎は失われたが、今だ校内にその面影が残る。また、実は著名な考古学研究者がいる学校でもある。珍しい卒業生としては東邦生にぜひ身近の生きた歴史を学んでほしいと切に願っている。

東邦と私

三十期生 村瀬かおり (旧姓 浜)

中高六年間、ブラスバンド三昧の日々を送りました。体調を崩して授業を休んでも、放課後の練習には出てくるような生徒でした。養護教諭の鍛治下先生には大変お世話になりました。喉に針が刺さつたような違和感と痛みで前夜から食事が摂れなくなつたことがあります。

「唾も飲み込めない。」と保健室に行くと鍛治下先生が黙つてすつと立ち上がり、窓際のスチール製の棚の扉を開けてカップめんを取り出しました。何も聞かずにポットのお湯を注ぎ、「それじゃあお腹が空いたでしょ?」と差し出しました。「だから喉が痛くて食べられません。」

「のびちゃうわよ。」

静かな保健室でカップめんをすすつていくと、不思議と喉の痛みが薄れていきました。私の心の問題だと自覚できた一瞬でした。当時は中高とも鍛治下先生が担当されてお

り、私が看護の道を志したときには「浜さんのためにもう一つの椅子を空けて待っているわ。」と最高の祝辞をいただきました。いつかまた母校に戻るのが私の夢でした。

転勤族の夫と各地を転々としていたときには新しい環境の中でも周りに流されず、自分らしさを見失わないように努めておりました。看護師の資格を生かして働きながらプライベートでは市民オーケストラに所属し、何処にいても音楽と関わることで多くの仲間を作ることができました。それもやはり顧問の内藤先生、佐藤先生をはじめ六年間見守つて下さつた諸先生方のお陰です。

昨春、長男が東邦へ進学し、私は習志会のネームプレートを首に下げて母校を訪れることとなりました。息子はオーケストラ部で恩師の指導も受けさせていただきました。今も変わらぬ先生方にお会いすると、四半世紀前の懐かしい記憶と初心が呼び覚まされます。同窓生からも母校の教壇に立つ方が増え、保護者としても心強いかぎりです。

私は昨年から習志野市内の福祉施設で念願の「保健室のおばちゃん」になりました。園生さんと関わる中で、鍛治下先生ならどうアプローチしただろうと想います。今でも東邦で過ごした六年間は私に影響を与え、日々成長させてくれております。

三十年前に入学を記念して頂いた銀杏の苗木がゆつくり生長し、ちょうど息子の背丈と同じ高さになりました。諸先生方のご指導に感謝し、母校の益々の発展をお祈りいたします。

訂 正

昨年度の会報P15に掲載した宝田太郎さんの原稿に誤植がございました。お詫びして、訂正させて頂きます。

(誤) 藤本拓丙君 ↓ (正) 藤本卓丙君  
(誤) 興柏精孝君 ↓ (正) 興柏精孝君

## 若者というエネルギー

三十一期生 前川智子  
(旧姓 藤城)

卒業生の私が、中学二年生の担任として再び東邦に戻ってまいりました。さまざまな人との出会いや縁そしてめぐり合わせに感謝しながら、今度は少しでも自分にできることを還元していけたらいいなと思っています。

後輩というたくさん生徒達を見ながら『若さというエネルギー』の大きさを感ぜずにはいられません。そしていつも次の話を思い出します。いつの時代も若者が多く集まるところにとつてもない可能性が生まれるというものです。反対に若者が入りにくいような敷居を作ってしまったものは、その面白味がどんどん薄れていくということ、芸術を例にとつて話しても良かったことが強く印象に残っています。いつの時代も、見向きもされなかったり、低俗だなどとみなされているものの方が実は計り知れないほどのパワーを持っている。例えば「枕草子」や「源氏物語」。これらは今でこそ日本を代表する文学作品ですが、この物語が生まれた平安時代には中国が文化の発信地で、漢文こそが最高の学問。そんな時代に書かれた、かな文字の長編小説は二流文学だと見なされていたはず。時代は移って室町時代、能が芸術であることみなされていた頃、歌舞伎は今で言う「パンク」と同じだったようです。歌舞伎の役者は派手なメイクに爆発したような髪型、派手な衣装を着崩して着るはで、コンサパティブな人達からは白い目でみられていたはず。でも時代が移って江戸になると、押しも押されぬ日本文代表の芸術とみなされている。最近でいえば、舞台の上こそが役者の晴れ舞台と言われていた

頃、映画に携わる者は「陸役者」と言われ二流と見なされていたとか。しかし間もなく空前の映画ブームとなり、それが下火になる頃にはテレビ時代をリードし、今はテレビよりも、アニメ(漫画)やゲームが時代の先端をいつている。それは何故か。一旦、「芸術」とみなされ、もてはやされるようになるとその道を目指す人間が多くなり、競争は熾烈なものとなる。すると若者がその道に入りにくい状態になるばかりでなく、その道に携わるこそが目的のようになつてしまい、そこでいい仕事をしようとか、なにかを作り上げようとする当初の目的が希薄になつてしまう。すると間口の広い、その時代ではあまり注目されていないようなそんな世界に若者が多く入るようになる。そこでは若者の持つ、計り知れないエネルギーが次の時代をリードする、そういつた繰り返しが起こっている。この話を聞いたとき、なるほど!と思いましたが。自戒もこめて、人は自分の気持ちに正直になるよりも、周りの評価や意見を気にして自分を枠にはめていくことが案外多いのかもしれない。でも歴史の示すとおり、本当に自分のやりたいことをやる、純粹に好きだからその道に進むというひたむきさが、とつてもないエネルギーを生み出すことにつながるということを感じさせられました。

『富士山は裾野が広いからこそ高い』という言葉は、いろいろな分野でさまざまな人が活躍し、支えあつてお互いに高め合えるということを示唆しているように思えます。可能性あふれる若者の将来を一緒に考えていくお手伝いができるよう、私も精一杯がんばりたいと思います。

## 大槻忠先生を偲ぶ会

二十三期生 細谷修啓

平成十九年一月二十三日、大槻忠先生ご逝去。その訃報の連絡は杉田和実君からであった。いつも元気で御活躍されているものとはばかり思っていたので、信じられなく、驚いた。

一月二十四日の御通夜に、職場から駆けつけた。ご遺族の方々、そして、久しぶりに旧友とも再会することができた。その時に、在学当時、大槻先生が担任をしてくださった二年I組として、「偲ぶ会」を開催してはどうかと声が上がった。幹事は自分と田中薫君。卒業時の名簿を頼りに、クラスメイトと連絡を取り始めた。時折、会っている人もいたが実に三十年ぶりに電話をする人もいた。東邦高校の同窓会事務局の御喜和先生にも連絡をとり、三十年前の名簿を送って頂き、ご尽力していただきました。卒業後、社会の荒波の中で、一人一人がそれぞれの立場で孤軍奮闘している。困難のない人生などない。逆風に負けず、飛び立ってこそ人生の飛翔があり、勝利の喜びがあります。連絡を取り交わす中でそのように感じました。二年I組(愛組)大槻ルームは、特に仲が良く、クラスメイト同士で結婚し、二組の家庭(杉田家・橋本家)が生まれるきっかけとなり、現在、一家和楽の模範の家庭を築かれております。大槻先生には大変にお世話になりました。田中薫君とは何回か会って、「偲ぶ会」当日へ向けて、企画を検討してきました。女子の連絡は田中彩織さんを中心にお願いし、開催場所へ設定は橋本英世君が尽力してくださいました。日時は六月三十日、場所は東魁楼・本館(船橋市)。この「大槻先生を偲ぶ会」の主旨は、今も一人一人の心の中に大槻先生との思い出があり、また、生きてい

る。その先生の影響を受け、一人一人が成長した姿で集い会うというものだった。恩師にとって、一番喜んでくれることは何か。それは、生徒の人間的な成長です。又、ご遺族の方々、就中、大槻先生の奥様を勇気づけて差し上げたい、ささやかかもしれない、けれども心温まる偲ぶ会にしていきたいと思いました。六月上旬、初夏の中、故大槻先生宅を訪問し、奥様に直接、招待状をお届けしました。「どのような形の偲ぶ会にしたらいいのでしょうか」と、「皆さんの思いならどのような形でも結構です」とのことでした。

六月三十日当日、男子九名、女子十三名が出席。残念ながら、都合のつかない人も多数おりました。式次第は、幹事挨拶(細谷)、黙祷(全員で一分間)、奥様・ご長男様挨拶、来賓挨拶(花島満枝先生 旧姓・野島) 献杯(田中彩織さん)、大槻先生との思い出(岡崎至宏君、杉田和美君、橋本英世君)、近況報告(全員)、幹事挨拶(田中薫君)、記念撮影。奥様からは、闘病生活のことを、妻として、全力で看病にあたったことが話され、皆が涙ぐむ場面もあり、深く心を打たれました。また、出席者全員が近況報告をしてくれて感激しました。遠い所、多忙の中、仕事を終えて駆けつけてきた人もいた。人生にとって最もうれしいことは何か。それは親友と会えることです。共に青春のページを綴った友と再会できることほど素晴らしいものはありません。記念撮影の際、奥様に荻野典子(旧姓・木下)さんより花束贈呈、杉田和美君より、自筆の大槻先生の生前の肖像画が手渡されたました。さらに、全員が、色紙に心込めた一言を書かせて頂き、贈呈させて頂きました。

高校二年の夏、大槻先生の物理の授業で地球物理学者、寺田寅彦のこと話されたことがあり、その著書を最近、再読しています。その中

に、次のことが書かれておりました。「いろいろな不幸のために心が重くなったときに、先生に会って話していると心の重荷がいつのまにか軽くなっていった。不平や煩惱のために心の暗くなった時に先生と相対していると、そういう心の黒雲がきれいに吹き払われ、新しい気分での分の仕事に全力を注ぐことができた。先生というものの存在そのものが心の糧となり医薬となるのであった。こういう不思議な影響は先生の中のどういふところから流れ出すのであったか、それを分析しようとは先生を客観する事は問題であり、またしようとは思わない。」(『寺田寅彦随筆集』第三巻―夏目漱石先生の追憶―)

偲ぶ会開催にあたり、お一人お一人が尽力してくださり、同窓会事務局御喜先生にも大変にお世話になりました。厳粛な中にも心温まる偲ぶ会が開催できましたことを、改めて、ご報告し、感謝申し上げます。最後になりますが、謹んで大槻先生の御冥福を心よりお祈り申し上げます。



大槻先生を偲ぶ会 2007. 6. 3  
東邦大付属東邦高校 2年I組

## 東邦こそ我が原点

三十一期 北川 太郎

私今年の夏、千葉県吹奏楽コンクール小学校の部に次女が出演しました。会場は千葉文化会館。約三十年前私が立った同じ舞台です。娘の晴れ舞台を鑑賞しながら三十年前にタイムスリップした自分がいました。

昭和五十四年に東邦中学に入学した私は吹奏楽部に入部しました。部室は高校校舎裏の旧兵舎を改造した第二体育館の建物にありました。広さは四十名の部員がぎゅうぎゅうで合奏が出来る広さでした。冷暖房は当然あるはずもなく、パート練習は広いグラウンドに向かって楽器を吹いていました。夏は日陰を探し、冬は日向を探し、飛んでくるサッカーボールをよけながらの練習でした。

当時は合宿を年二回、夏休みと春休みに今はなき習志館に泊まり学校で行なっていました。習志館も旧兵舎でした。夏合宿は吹奏楽コンクールに向けての集中特訓、春合宿は基礎力アップ。朝から晩まで楽器を吹きっぱなしで昏が倍に腫れあがる程の猛練習でした。

合宿では厳しい練習の合間にも楽しい思い出があります。夜中にいつまでも寝ない男子部屋に「早く寝ろ!」と注意に来た顧問のN藤先生が先輩の聞いていた深夜ラジオ(タモリのオールナイト・ニッポンだったと記憶しています。)を一緒に聞き始め、深夜まで先生も男子部員もみんな笑い転げてしまいました。こんな関係が先生との信頼を築くプロセスであったと思います。

厳しい練習を積み重ね、昭和五十五年私が中二の時に千葉県吹奏楽コンクール第二部で『特別優勝』を獲得した事が私の東邦での一番の思い出です。結果発表の時に同期のハシピン(橋

本正幸君)と会場の通路で抱き合って喜びあつた光景が今でも思い出されます。

その後、中学吹奏楽部は二年後に千葉県吹奏楽コンクール第三部『金賞』、三年後にTBS音楽コンクール『東関東大会出場』と数々の栄光を獲得しました。

東邦での六年間は先を行く先輩と、一緒に歩く同期の仲間と、後に続く後輩達に支えられた学校生活でした。そして多くの先生方の導きがあつての今の自分の存在を感じています。様々な人との関わりが今のためにあつたと思います。言わば東邦こそ我が原点であると思つています。

最後に同じ思いを持つ親友三矢宏の活動を紹介します。同世代の東邦生が共通の思い出の場所と言えば「習志館」でしょう。三矢は最後の習志館生でした。彼は母校になんらかの形で習志館の名前を残したいと地道に運動をしています。多くの同窓生の賛同を頂きたくHPを紹介させていただきます。http://www.dignet.ne.jp/toho/index.html

## 人を守ることができる弁護士に

五十期生 岡田加奈子

私はこの春に大学を卒業し、初めて社会に出ました。もう東邦を卒業してから四年以上経つのだと思うと、改めて時の経つ早さに驚きます。東邦高校では毎日ハンドボールの練習をしたり、友人と馬鹿騒ぎしたり、校則を守らずに先生方に迷惑をかけたり…今思い出すとどれもが楽しく、懐かしい思い出です。

そして、東邦での生活は今の私の夢をみつけた自分探しでもありました。高校時代、たまたま見た映画をきっかけに、私は弁護士を志すようになり、慶應義塾大学の法学部に進学するこ

とを決めました。私は結婚後も働けるようになら資格がほしかったので、高校二年生までは漠然と「将来は薬剤師かな」と考えていたのですが、高校三年生になるときに文系に転向するのは勇気がいりましたが、家族や先生、友人の支えもあり、決意することができました。もともと気が多く、興味を持つとチャレンジしたくなる性格なのにもかかわらず中学・高校で忙しいハンドボール部に所属していたためか、私は忙しいほど頑張ることができるといふよりは忙しくないほど頑張れない)ようになりました。そこで、大学でも司法試験の勉強をしながらサークルにも所属し、またアルバイトをしたり、友人と様々な国に海外旅行いったりと、本当に充実した四年間を過ごすことができました。そして、大学四年次には運良く現行の司法試験に合格することができました。

合格してからは弁護士の先生に会ってお話を聞く機会が増えましたが、やはり実務家の方のお話を聞くと弁護士という職業には自分が高校のときに憧れていた様な所だけではないということがわかってきました。しかしせっかく自分の力で法律を道具として人を助けることができる弁護士になることができるチャンスを得ることができ、今はとにかく実務に出たときに早く通用するように一生懸命準備をしようと思つています。

私はこれから一年間岐阜地方裁判所で司法修習を終えた後、東京の渉外事務所まで弁護士になる予定です。大きな事務所を選んだ理由は多くの先輩の下で成長でき、いい経験を積むことができると思ったからです。将来、自分がどんな弁護士になつていくかはまだわかりませんが、企業法務であれ、一般民事であれ、常に依頼者の気持ちを考えてその権利・利益を最大限に守ることができるとありたいです。

## 大久保からブラへ

三十七期生 脇山美伸

東邦を出てから十六年―十八歳をあるひとつの変わり目とすると(それは「制服」を脱ぐことから象徴される)二年後にまた十八年がめぐつてしまふ。順風満帆に見えたはずの卒業後の私の進路も、灯台は見失い帆に穴は開き、遠回りばかりして、たどりついたのはイタリア北部の小さな映画祭だった。一生に二、二度ぐらい、そのままがんばらなさいよと天の声が言っているような気がする。とすれば二十八歳のその時で、技術も壮大さもない初めて作った映像作品の、ただその「視点」だけがホメられたことが、どんなにうれしかったか。

その後映画祭があつたブラというその町に移り住み(フランスとの国境に近いピエモンテ州にあり、人口三万人、ミラノからは車で三時間ほど)、四年半もたつた。日本では名の知れたスローフード運動のオフィスがあるせいで美しい暮らしを満喫しているように誤解されるが、化学製品工場と車の排気で汚染された空気を吸いながら、お味噌やゆでパスタで食事をすませることだつて多い。

チーズを作る羊飼いのドキュメンタリーを作り終え、これからまた次の作品に向かうという時に思い出すのは、数年前東邦を訪れた際世界史の先生が言われた「脇山さんは過激だった」という言葉である。十代の厳しさが自分勝手に他人の見えないモレツだったとすれば、少しは大人になつて丸くなつたかもしれないが、それが、今裏目に出て、何かを作つたり書いたりする時に大胆になれなかつたりもする。まっしぐら、を恐れないこと―東邦時代の私と今がどう出会えるだろうか。

# 学 校 の 近 況

## 一、在籍数（平成二十年四月現在）

《中 学》

	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	計
男子	170 名	226 名	196 名	592 名
女子	90 名	141 名	94 名	325 名
合計	260 名	367 名	290 名	917 名
学級数	7	9	7	23

《高 校》

	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	計
男子	217 名	274 名	232 名	723 名
女子	137 名	156 名	134 名	427 名
合計	354 名	430 名	366 名	1150 名
学級数	9	11	9	29

## 二、平成二十年度 主な学校行事の日程

体育祭（中学）十月四日（土）

九時から一般公開します。

（高校）六月十二日（木）

終了しました。

文化祭「银杏祭」（中高合同）

九月二十日（土）・九月二十一日（日）

一般公開は土曜が十二時から、日曜は九時からです。

## 入学試験

### 中学校

前期……………平成二十一年一月二十一日

後期……………平成二十一年二月三日

### 高校

前期選抜……………平成二十一年一月十七日

後期選抜……………平成二十一年一月二十八日

## 三、部活動の活躍

※平成十九年四月～二十年三月  
※県大会レベル以上を掲載

### 中 学

#### ●陸上競技部

県通信出場、県総体出場  
県新人戦出場

#### ●硬式テニス部

県総体出場、県新人戦出場  
県総体出場、県新人戦出場

#### ●水泳部

関東大会

#### ●スキー部

男子400mリレー第二位  
全中スキー大会  
男子個人出場 女子個人出場  
男子リレー出場

#### ●ハンドボール部

県新人戦優勝（男子）、  
県一年生大会 三位（男子）  
県総体出場、県新人大会出場、  
県一年生大会出場

#### ●卓球部

男子個人出場 女子個人出場  
男子個人出場  
全日本ジュニア

### 高 校

#### ●剣道部

県新人戦出場  
全国学生美術展中学生の部  
台紙作品推奨 台紙作品佳作

#### ●バスケットボール部

県総体（男子）出場  
県総体出場

#### ●サッカー部

県総体

#### ●硬式テニス部

団体戦（男女）出場  
男子シングルス出場  
男子ダブルス出場  
県新人戦

#### ●ハンドボール部

男子ダブルスベスト8  
県関東予選出場（男女）  
県総体出場（男女）

#### ●陸上競技部

県新人戦（男女）出場  
関東選抜大会（女子）出場  
全国選抜大会（女子）出場  
全国選抜大会（女子）ベスト16  
県総体出場（男女）、県新人戦出場（男女）  
県関東予選出場（男女）、  
県総体出場（男女）、県新人戦出場（男女）

#### ●剣道部

県新人戦出場  
県新人戦出場

#### ●卓球部

県新人戦出場、県新人戦出場  
関東大会（女子個人）出場  
関東個人選手権（女子個人）出場  
関東大会 総合二位入賞（男子）

#### ●スキー部

クロスカントリイ  
男子個人 二位入賞 四位入賞 他  
女子個人 出場

#### ●弓道部

男子個人 優勝  
女子個人 出場

#### ●バスケットボール部

アルペン 男子個人 出場  
全国高校総体  
クロスカントリイ 男子リレー出場  
アルペン 男子個人 出場

#### ●ハンドボール部

団体戦（男女）出場  
男子シングルス出場  
男子ダブルス出場  
県新人戦

#### ●卓球部

クロスカントリイ 男子個人出場  
クロスカントリイ 男子個人出場



四、ご退職の先生

平成二十年三月、佐川金大先生(数学科)、泉靖江先生(保健体育科)が浮田豊志先生(数学科)が東邦中・高校をご退職になりました。

佐川金大(かねお)先生は昭和四十八年四月、東邦高校に奉職。「キンタ」の愛称で慕われながら、本校の数学指導を支えてこられました。六十五歳定年での退職ですが、バイタリティ溢れる指導も、若々しくスマートな体躯も、衰えを見せることはありませんでした。

泉靖江先生は昭和四十四年四月に奉職。佐川先生と同じく、定年での退職となりました。「体育が苦手な子にも体育の楽しさを教えたい」というのが先生の教科指導の原点なのだそうです。日々全力投球。ご退職の日まで、生徒にありつけたけの愛情を注ぐ先生でした。

浮田豊志先生は、昭和四十四年四月に奉職。若くてハンサムな先生は女子生徒の人気の的でした。三十路なかばで患った大病はお苦しかったと思いますが、学校では穏やかな笑顔で過ごしていらっしやいました。先生からは、ご退職の先生方を代表して玉稿を寄せて頂きました(特別寄稿のページをご覧ください)。

五、母校の教壇に立つ同窓生(敬称略)

- 小高 昌次 数学科 高校教務部長 十三期生
- 岡田(旧姓 桜井) 久仁子 保健体育科 高校三年学級担任 十五期生
- 御喜 和 理科(生物) 高校生徒指導部長 十八期生

池田 浩治 理科(生物) 中二年主任 二十九期生

前川 智子 数学科 中学二年学級担任 三十二期生

宮島 知里 国語科 中学二年副担任 三十四期生

岡田 隆治 技術家庭科 中学二年学級担任 三十六期生

山口 武史 数学科 高校一学級担任 三十七期生

加藤 充 公民科(政経) 中学二年学級担任 三十七期生

久富夕紀子 公民科(政経) 高校3年学級担任 三十九期生

土田 雄大 数学科 中学一年学級担任 四十五期生

小林 桂 保健体育科 中学二年副担任 四十五期生

山川(旧姓 白石) 眞佐子 地歴科 中学非常勤講師 四十五期生

小山 達也 理科(物理) 中学非常勤講師 四十八期生

学校説明会・学校見学会

中学

- 学校説明会 ①十月二十日(月)
- ②十月二十一日(火)
- ・両日とも十四時～十五時半
- ・於 第一体育館アリーナ
- ・予約、上履きともに不要です。

個別の学校見学

- ・原則として土曜日の十時に本館ホールに集合
- ・要電話予約 上履き不要

高校

- 学校説明会 十月二十五日(土)
- ①十時～十一時半
- ②十四時～十五時半
- ・於 セミナー館視聴覚大ホール
- ・要電話予約 上履き不要
- 学校見学会 ①七月二十六日(土)
- ②八月三十日(土)
- ③十一月二十二日(土)

- ※TEL 047-472-8191
- ・いずれも十時～十一時半
- ・要電話予約 上履き不要



校内花いっぱい運動 平成 20 年 5 月

大学名	合格			学部名			合格			進学		
	現	浪	計	現	浪	計	現	浪	計	現	浪	計
神奈川	2	1	3	法	1	1	1	1	1	1	1	1
神奈川歯科	1	1	2	歯	1	1	1	1	1	1	1	1
鶴見	1	1	2	歯	1	1	1	1	1	1	1	1
金沢	1	1	2	歯	1	1	1	1	1	1	1	1
愛知	1	1	2	歯	1	1	1	1	1	1	1	1
京都女子	1	1	2	現代社会	1	1	1	1	1	1	1	1
同志社	4	2	6	法	2	2	4	1	1	2	2	4
				社会	1	1	2	1	1	2	2	4
				理工	1	1	2	1	1	2	2	4
				生命医科	1	1	2	1	1	2	2	4
				スポーツ	1	1	2	1	1	2	2	4
立命館	7	7	14	法	5	5	10	1	1	2	2	4
				政策科学	1	1	2	1	1	2	2	4
				経営	2	2	4	1	1	2	2	4
				国際関係	1	1	2	1	1	2	2	4
				理工	3	3	6	1	1	2	2	4
大阪医科	1	1	2	医	1	1	2	1	1	2	2	4
近畿	1	1	2	理工	1	1	2	1	1	2	2	4
関西学院	1	1	2	文	1	1	2	1	1	2	2	4
福岡	1	1	2	薬	1	1	2	1	1	2	2	4
立命館アジア	2	2	4	太平洋	1	1	2	1	1	2	2	4
立命館アジア	2	2	4	アジア太平洋	2	2	4	1	1	2	2	4
立命館アジア	2	2	4	マネジメント	2	2	4	1	1	2	2	4
私立大計	727	306	1033		727	306	1033	179	68			

【その他】

学校名	合格			学部名			合格			進学		
	現	浪	計	現	浪	計	現	浪	計	現	浪	計
防衛医科大学校	1	1	2				1	1	2			
防衛大学校	1	1	2				1	1	2			
千葉医療技術大学校	1	1	2				1	1	2			
東京ナカノロジック	1	1	2				1	1	2			
東京コミュニケーション	1	1	2				1	1	2			
東京コミュニケーション	1	1	2				1	1	2			
海上自衛隊航空学生	1	1	2				1	1	2			
その他計	3	3	6				3	3	6			
総計	794	333	1127				794	333	1127	242	93	

主要大学合格者数

【国公立大学】(4月18日現在)

大学名	17年度			18年度			19年度			20年度		
	現役	浪人	合計	現役	浪人	合計	現役	浪人	合計	現役	浪人	合計
東京	3	1	4	5	2	7	2	3	5	3	1	4
京都	2	1	3	1		1		2	2	1	2	3
東京工業	3	5	8	6	3	9	6	1	7	8	2	10
一橋	2	1	3	2		2	1	2	3	2		2
旧帝大	3	2	5	9	1	10	3	2	5	4	2	6
千葉	23	5	28	19	7	26	24	6	30	24	3	27
千葉大医学部	2	1	3	2	3	5	4		4	1	3	4
国公立医学部	6	11	17	9	14	23	7	10	17	1	10	11
その他	22	10	32	21	6	27	25	24	49	24	10	34
国公立大学合計	75	44	119	72	31	103	61	47	108	65	26	91

上記の旧帝大とは北海道・東北・名古屋大・大阪大・九州大

【私立大学】

大学名	17年度			18年度			19年度			20年度		
	現役	浪人	合計	現役	浪人	合計	現役	浪人	合計	現役	浪人	合計
早稲田	52	31	83	67	26	93	34	34	68	66	26	92
慶應	20	17	37	27	15	42	25	23	48	42	12	54
上智	32	16	48	32	7	39	17	11	28	25	14	39
東京理科	70	56	126	100	43	143	101	51	152	87	29	116
早慶上智理科大合計	174	120	294	226	91	317	177	119	296	220	81	301
私立医学部	14	26	40	22	33	55	22	5	27	15	38	53
私立歯学部	1	13	14	6	4	10	5	2	7	4	5	9
私立薬学部	67	28	95	52	51	103	77	13	90	78	24	102
私立獣医学	4	6	10	8	10	18	5	10	15	10	10	20
私立医歯薬合計	86	73	159	88	98	186	109	30	139	107	77	184

# 平成二十年度 入試結果

進路指導部長 山岸 良二

今年も着実に医歯薬理系で成果  
 慶應大薬学部 十名 東京工業大 十名  
 早慶上智理科大でも大きく躍進  
 早稲田大学 九十二名(現役六十六名)  
 慶應大学 五十四名(現役四十二名)  
 慶應は史上最高に迫る現役合格者数  
 東京理科大は五年連続一〇〇名越える  
 薬学部 総計一〇六名 医学部 総計六十四名  
 国公立大合格者 総計九十一名

前年度と比較して大幅なセンター試験の易化傾向は本校でも顕著に現れました。全国平均との比較でも、英語で約三十四点、国語で十九点、数学ⅠAで十六点、数学ⅡBで十五点、理科三科目の平均でも十三点、地歴三科目の平均でも十二点も上回る好成績となりました。このため、学年ではセンターリサーチの結果を踏まえて国公立大学志望者に対しては初志貫徹の意識を強くもって出願するよう指導しました。その結果、東京大学後期定員縮小で一番大きな影響を受けたと予想された東京工業大学十名、一橋大学二名、東北大学三名、京都大学三名という着実な成果をあげました。この背景には自己採点に関わらず当初からの確固たる志望理由の位置づけと二次試験対策への強い自信があったと思われまます。分野ごとでは、医学部六十四名(国公立十一名、私立五十三名)、薬学部一〇六名(現役七十八名、浪学部十一名(現役五名、獣医学部二名(現役十一名)と「医歯薬系の東邦」の名前に恥じない実績を今年も示しました。中でも千葉大医学部に四名(県内二位)、同薬学部に現

役一名、九州大薬学部に過年度生一名という生徒諸君のがんばりがみられました。  
 一方、他の大学別でも東大四名(県内四位、昨年度四名)、東工大十名(同九名)、一橋大二名(同三名)、千葉大二十七名(県内私学トップ、同二十六名)、東京理科大一六名(県内私学トップ、同一四三名)、早稲田大九十二名(県内私学三位、同六十八名)、慶應義塾大五十四名(県内私学四位、同四十八名)、上智大三十九名(県内私学トップ、同二十八名)、明治大七十五名(県内私学三位、同七十七名)、立教大六十六名(県内私学トップ、同四十八名)、法政大四十九名(同五十九名)と主要難関大学でも着実な実績をあげています。さらに、本年度から正式に慶應義塾大学薬学部として募集が始まった旧共立薬科大については一〇〇倍を越す高倍率の入試も含めて十名が合格しました。(実は共立薬科大時代には東邦から毎年多数の合格者があり、合併直前の二〇〇七年度集計で在籍大学生の出身高校第一位は本校でした)  
 因みに、東邦大学には医学部十一名、薬学部二十七名、理学部二十名の総計五十八名が合格しました。  
 お陰様で最終的現役生の進学率は七十%を超えました。なお、二年に在学しておりました中山貴祥君が千葉大薬学部先進科学プログラム(方式Ⅱ)に応募、見事県内で唯一人合格となりました。これは、いわゆる「飛び級入学試験制度」で千葉大が全国で先駆けて実施しているのですが、これまで本校からも何人もチャレンジしながら果たせなかった快挙を中山君が達成いたしました。彼の報告によれば、面接試験では面接官十二人対一人を六十分間も受けたという難関? だったそうです。彼の今後の活躍に期待大です。

平成 20 年度入試 大学等合格者・進学者数

【国公立大学】

Table of national/public university admission statistics. Columns include University Name, Total Applicants, Total Qualified, Department Name, Total Applicants, Total Qualified, and Total Admitted. Lists include Hokkaido, Tohoku, Kanto, Kansai, Chugoku, Shikoku, Kyushu, and various specialized universities.

\*本人からの申し出による数字です。大学などの発表数とは異なります。

【私立大学】

Table of private university admission statistics. Columns include University Name, Total Applicants, Total Qualified, Department Name, Total Applicants, Total Qualified, and Total Admitted. Lists include Keio, Waseda, Rikkyo, and other major private institutions.

Table of national/public university admission statistics (continued). Columns include University Name, Total Applicants, Total Qualified, Department Name, Total Applicants, Total Qualified, and Total Admitted. Lists include various national universities and specialized institutions.

Table of national/public university admission statistics (continued). Columns include University Name, Total Applicants, Total Qualified, Department Name, Total Applicants, Total Qualified, and Total Admitted. Lists include various national universities and specialized institutions.

Table of national/public university admission statistics (continued). Columns include University Name, Total Applicants, Total Qualified, Department Name, Total Applicants, Total Qualified, and Total Admitted. Lists include various national universities and specialized institutions.

# 新入会員を迎えて

同窓会は、この三月、三九三名の新しい仲間を迎えました。  
新会員の希望に燃えたメッセージを紹介します。

**満** 開だった桜も役目を終え、若葉が一層生き生きと感じられる季節となりましたが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。

今年、私たち五十四期生は、それぞれの思いを胸に、東邦高校を卒業いたしました。

東邦高校での生活は、本当に思い出のたくさん詰まった三年間でした。振り返ってみると、クラスや部活動など、どれをとっても、かけがえのない仲間と過ごした楽しい思い出ばかりで、東邦で良かったと心の底から思えます。卒業してから二カ月ほどが経ちましたが、未だにまた明日にでも会えるような気がしてなりません。

私は東邦大学薬学部に進学し、新しい環境の中で過ごしているのですが、今、東邦高校で過ごしたその三年間が、勉強においては礎となり、また生活においては心の支えとなっています。それぞれが違う環境の中で、それぞれの目標を持ち、その目標に向かって努力していることを思いながら、たとえ同じ時間を過ごした東邦高校から離れても、こうして繋がっていられることを幸せに思いながら、私も、私なりの道を歩んでいます。

大学での講義は一般教養とは言いながら、高校に比べるとかなり専門性を増し、さらに早期体験実習などを通じて、自分がなぜこの道を選んだのか、何を目指しているのか、今、何をやるうとしているのか、などということについて改めて考えさせられる時期です。大学生活にもだんだん慣れてきたと同時に、自らの目指すものについて、モチベーションもあがってきているように感じます。

私たちはそれぞれ違う目標に向かってはいるわけですが、その先にある未来は一つです。それぞれが一人の人間として大きく成長し、また協力しあい、社会の一員として世の中に貢献できるよう、日々努力していきたいと思えます。

桜井 美杏

## 同窓会事務局より

事務局担当理事 御喜 和  
18 期生母校教員

- (1) 同窓会事務局がセミナー館 2 階へ移動しました
- (2) パート事務員の方の同窓会事務局での執務時間  
水曜日 9:30 ~ 14:30  
土曜日 9:30 ~ 14:30  
同窓会へのお問い合わせは、なるべくこの時間帯にお願いします  
直通電話 047-472-1160  
\* FAX 番号は電話番号と同じです
- (3) 緊急の連絡に関して  
上記の執務時間以外は、同窓会室への電話連絡はできません  
緊急のお問い合わせは学校代表  
047-472-8191 にお電話いただき、「同窓会関係教員」を呼び出してください
- (4) ホームページ等に関して  
URL <http://www.dosokai.org>  
E-mail [tohojh\\_dousokai@yahoo.co.jp](mailto:tohojh_dousokai@yahoo.co.jp)

## 会場案内図



◆同窓会総会・懇親会◆  
日時 平成二十年七月十三日(日)  
十二時 総会開会  
十三時 懇親会開会  
会場 帝国ホテル東京 (本館四階 桜の間・桃の間)  
〇三(三五〇四)一(一)一(代表)